

2015 年度

ミラークよこすか

事業報告



社会福祉法人 電機神奈川福祉センター

目次

1. 事業の概要

- (1) 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3p
- (2) 法人設立と施設設置の経緯・・・・・・・・ 3p
- (3) 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3p
- (4) 2015 年度事業目標と年度末事業結果・・・・ 4p
- (5) 2016 年度事業目標・・・・・・・・・・・・・・・・ 5p

2. 2015 年度事業報告

- (1) 新規利用者等の問い合わせの状況・・・・・・・・ 6p
- (2) 利用者の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7p
- (3) 訓練プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9p
- (4) 就労支援と定着支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 12p

3. 2016 年度に向けて

- (1) 現状の振り返り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14p
- (2) プログラム改定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14p

1. 事業の概要

(1) 目的

障害を持つ人が社会自立できるよう支援する。

(2) 法人設立と施設設置の経緯

1972 年、電機連合神奈川地方協議会（以下、地協と呼ぶ。）は、第 20 回定期大会において、労働組合としては全国に先駆けて障がい福祉活動を開始した。地協は、神奈川県内の電機・電子・情報機器関連産業に働く組合員で組織された産業別労働組合である（2015 年 3 月末現在 109 単組・支部、組合員数 75,736 人）。障害をもつ人も「ともに学び、遊び、育ち、働き暮らせる社会」を目指した障がい福祉活動は、国際障害者年の理念でもある「ともに生きる社会づくり」への大きな潮流につながった。

この活動を 20 年にわたり続けてきた間に、障害をもつ子どもたちの育ち学びあう場は広がり、選択できるようになってきた。しかし、学校卒業後の進路は依然として厳しい状況が続いていた。

そこで、地協の障害福祉活動のさらなる展開として、1991 年に「電機神奈川福祉センター設立準備委員会」を設置し、1995 年 3 月に神奈川県より社会福祉法人の認可を受けた。

1996 年には「ぽこ・あ・ぽこ」が事業を開始（「横浜南部就労援助センター」は法人設立前（1992 年）に事業を開始）し、これまで横浜、川崎、湘南地域で、障害者の社会自立や一般就労を中心に支援を行ってきた。

2013 年に新たな事業展開を検討し、横須賀地域での障害福祉サービス事業所開設に向けた調査を開始した。2014 年 10 月には「横須賀新事業所開設準備室」が設置され、2015 年 1 月 1 日に「ミラークよこすか」が事業を開始した。

(3) 施設概要

【事業所指定】 （2015 年 1 月より） ● 法的根拠：障害者総合支援法 ● 事業指定者：横須賀市長 ● 事業所番号（サービス種類）：1411901760 [自立訓練事業（生活訓練）・就労移行支援事業] ● 指定日・事業開始日：2015 年 1 月 1 日 【利用対象者】 ● 原則として 65 歳未満の知的障害者・精神障害者 ● 定員：自立訓練事業（生活訓練）8 名、就労移行支援事業 12 名（2015 年 7 月 1 日に変更）			
所在地	横須賀市大滝町 2-15-1 横須賀東相ビル 6 階		
交通機関	京浜急行線 横須賀中央駅より徒歩 4 分		
Tel	046-821-3450	Fax	046-887-0480
開設年月日	2015 年 1 月 1 日		
建物構造	鉄筋コンクリート造 9 階建（横須賀東相ビル内）		
面積	専用部分 219.17 m ²		
設備内容 （共用部分）	食堂・作業室 1・作業室 2・男性ロッカー・女性ロッカー・倉庫・事務室・相談室・ （男性トイレ・女性トイレ・給湯室）		

(4) 2015 年度事業目標と年度末事業結果

年度目標	年度事業報告
重点目標	
● 新規利用者 15 名を受け入れ、安定した施設経営ができる体制を築きます。 ● 地域での施設の認知度向上を目指し、情報発信を積極的に行います。	● 新規利用者 15 名を受け入れました。利用希望者等の実状を踏まえ、定員変更を行いました。 ● 事業所の状況に応じてパンフレットの改定(年度内に 2 回)や外部会議等での情報発信を適宜行い、利用を視野に入れた方 53 名の施設見学を受け入れました。
1) 就労移行支援事業(10 名定員)	
● 新規利用者 8 名を受け入れます。 ● 年間 2 名の就労者を輩出します。 ● 施設外実習先を確保し、4 名の利用者に職場実習の機会を提供します。 ● 障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携し、就労先の開拓やマッチング等、円滑な就労支援ができる体制を築きます。	● 新規利用者 12 名(自立訓練事業からの事業移行を含む)を受け入れました。 ● 4 名の就労者を輩出しました。 ● 事業所近隣で短時間の実習先を 2 件開拓し、企業実習等と合わせて 9 名の利用者に施設外実習の機会を提供しました。 ● 企業情報の交換、定着支援、訓練プログラム等を就労援助センターやハローワークと協力して実施しました。
2) 自立訓練事業(生活訓練)(10 名定員)	
● 新規利用者 7 名を受け入れます。 ● 年間 1 名の就労移行支援事業への事業移行を目指します。 ● 生活課題の改善に向けた講習プログラムを作成します。	● 新規利用者 7 名を受け入れました。 ● 4 名の利用者が就労移行支援事業へ事業移行しました。 ● 7 月に支援プログラムの見直しを行い、生活課題に対応した講習を開始しました。
3) 運営全体	
● 日々のミーティングや全体ミーティングにおいて、支援や苦情内容の振り返りを行い、適切な支援ができるよう職員の意識向上を図ります。 ● 外部からの作業を 1 件受注します。 ● 年間 15 名以上の実習生を受け入れます。 ● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員の意識を高めます。 ● 自立支援協議会等の地域の関係機関との会議に出席し、連携力の向上と情報収集に努めます。	● 日々のミーティングでの振り返りに加え、年度当初からの支援の状況や訓練プログラムの検証を行った結果、プログラム改定(平成 28 年 4 月改定)を実施することにしました。また、支援力向上や支援上の課題解決のため、部署内研修を 8 回開催しました。 ● 外部からの作業を 5 件受注しました。 ● 35 名の実習生を受け入れました。 ● 大きな災害は発生しませんでした。災害発生に備え、横須賀市消防局に協力を依頼し、避難訓練を 2 回実施しました。 ● 行政等が主催する複数の会議の委員としてネットワーク拡大や支援力の向上に努めました。また、事業所の全職員に対して、地域の会議等へ出席する機会を設けました。

(5) 2016 年度事業目標

重点目標	● 平成 27 年度の利用希望者の状況を考慮した結果、平成 28 年 4 月に就労移行支援事業 14 名、自立訓練事業（生活訓練）6 名へ定員変更を行います。また、自立訓練事業（生活訓練）に対するニーズ調査や事業継続性の検証を行い、平成 29 年度以降の事業廃止（就労移行支援事業の定員増）も含めた検討を行います。 ● 支援プログラムを改定し、幅広い層の利用希望者の受け入れと実状に応じた支援が提供できる体制を築き、事業所経営の安定を目指します。プログラム改定に伴い、発展強化計画における受注作業をベースとした支援から、講習・外部作業（実習）・ワークサンプル等を中心とした支援への転換を図ります。 ● 効率的な事業所運営のシステムを構築し、施設内支援、就労支援、職場定着支援をバランスよく実施できる体制を築きます。
1) 就労移行支援事業 (14 名定員)	● 新規利用者 10 名を受け入れます。 ● 1 日あたりの平均利用者数 13 名を目指します。 ● 年間 7 名の就労者を輩出し、就労支援機関として認知度の向上を目指します。 ● 7 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ● 障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携しながら、横須賀・三浦、横浜南部地域での職場開拓に取り組みます。 ● 職場定着支援対象者に対する支援の方向性を検討し、イベント等の必要性や地域の関係機関との役割分担等について検証します。
2) 自立訓練事業 (生活訓練) (6 名定員)	● 新規利用者 1 名を受け入れます。 ● 年間 3 名の就労移行支援事業への事業移行を目指します。 ● 就労移行支援事業と比較し、自立訓練事業（生活訓練）の利用希望者が少ないことを鑑み、地域のニーズ調査や事業の継続性について検証し、次年度以降のあり方を検討します。
3) 運営全体	● 日々のミーティングや全体ミーティングにおいて、支援や苦情内容の振り返りを行い、事業所としての支援の在り方を適宜検証していきます。 ● 年間 15 名以上の実習生を受け入れます。 ● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。 ● 地域の関係機関との会議に出席し、連携力の向上と情報収集に努めます。 ● 必要に応じて事業所内研修を実施し、職員のスキル向上を図ります。

2. 2015 年度事業報告

(1) 新規利用者等の問い合わせ等の状況

年間を通じて、62 件の利用希望を想定された問い合わせをいただいた。内、8 割以上の 53 件で見学を実施し、約半数の 34 件で体験実習を行った。

表 1.新規利用に関する問い合わせ等の状況

問い合わせ	見学	実習
62 件	53 件(85%)※1	34 件(64%)※2

※1：問い合わせから見学に繋がった割合

※2：見学から実習に繋がった割合

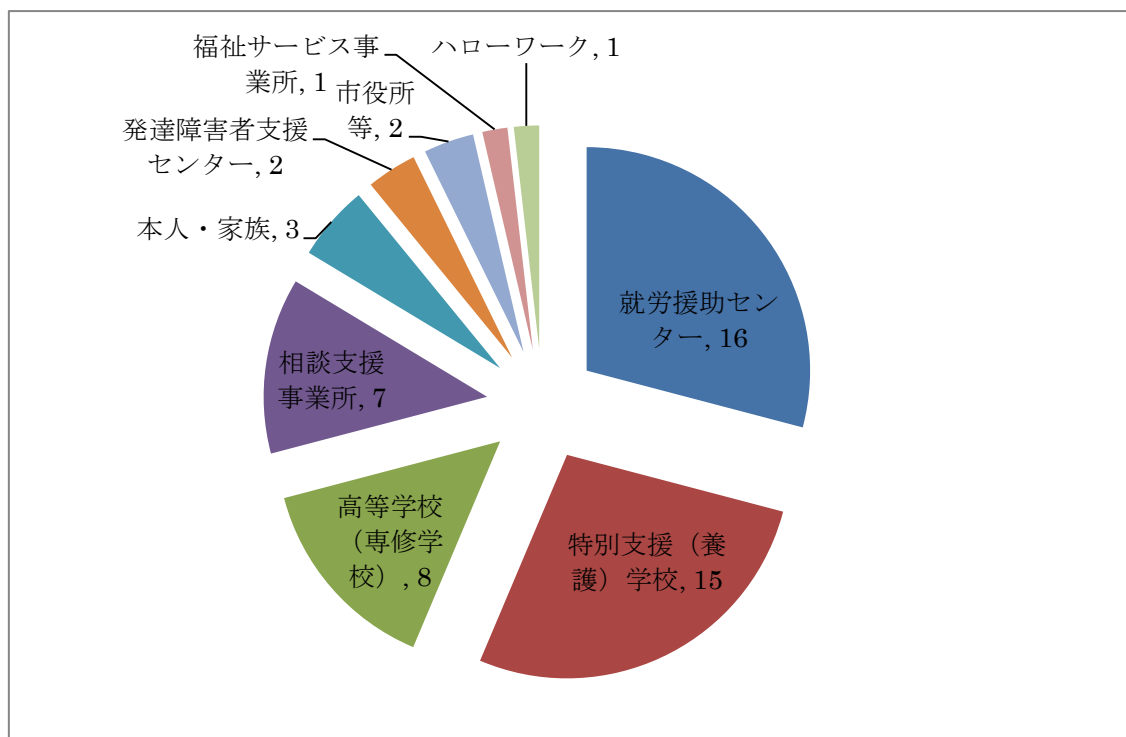


図 1.新規利用等に関する見学者の紹介経路

(2) 利用者の状況

年度内に 15 名が新たにミラークよこすかの利用を開始した。年度初めに新卒者を中心とした多くの方に利用を開始していただいたが、年度途中の新規利用者は少ない。

年間を通した、月平均契約者数は 20 名、1 日あたりの平均利用者数は 18.3 人となっている。

利用者の障害種別は知的障害が最も多く、全体の 8 割以上を占めている。年齢層は 10 代～20 代が半数以上を占めるが、40 代の利用者も全体の 2 割以上を占め、幅広い年齢層の方に利用していただいている。居住地は事業所所在地の横須賀市が最も多いが、横浜市在住の利用者が占める割合も小さくない。

表 2.月別利用者動向

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
新規利用		12	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	15
退 所	就労	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	4
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
利用者数		19	20	20	22	20	21	20	22	20	20	19	18	

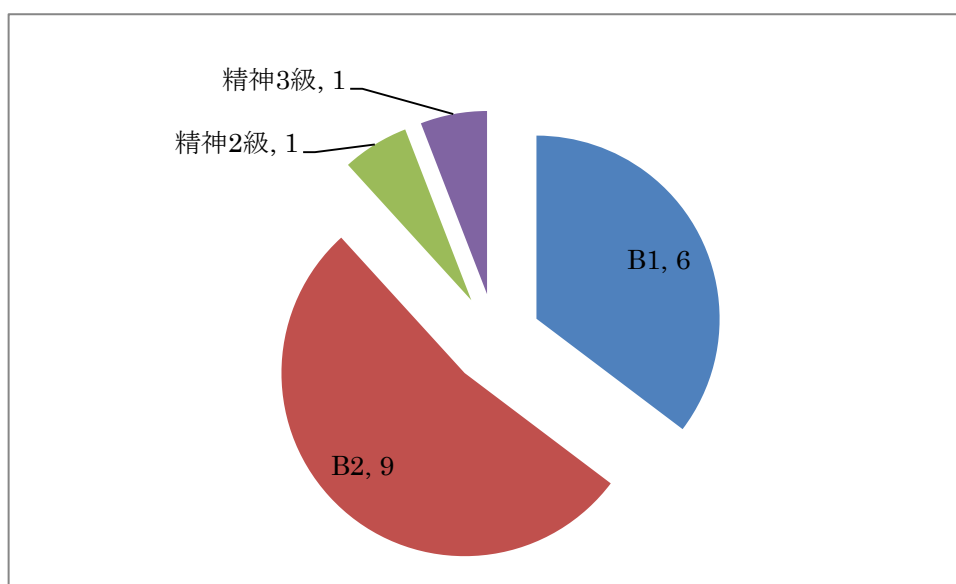


図 2.利用者障害種別 (2016 年 3 月 31 日現在)

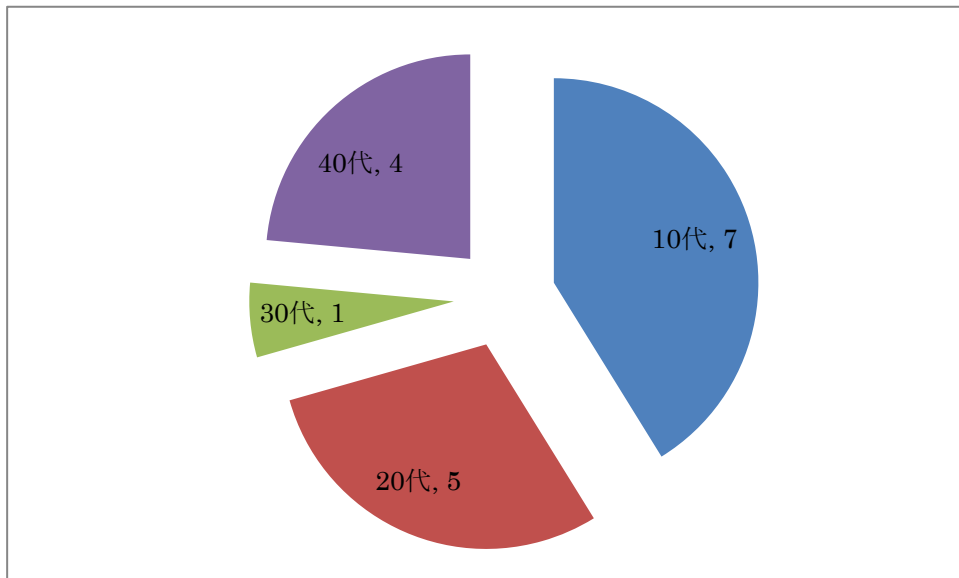


図 3.利用者の年齢層（2016 年 3 月 31 日現在）

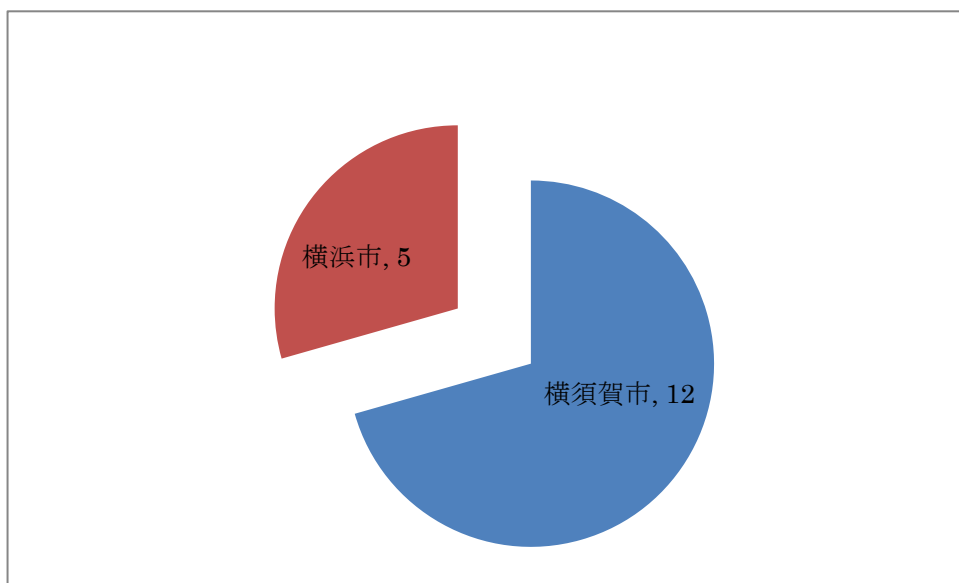


図 4.利用者の居住地（2016 年 3 月 31 日現在）

■ 就労アセスメント

2015 年度は、4 名の就労アセスメントを実施した。ミラークよこすかの就労アセスメントは、就労への可能性を評価することを目的に 2 週間の利用契約を結び実施した。就労アセスメントを実施した利用者の内、半数の 2 名が就労移行支援事業等を実施することで、一般就労の可能性があると評価を行った。

表 3.就労アセスメントの実施状況

紹介先	人数
養護（特別支援）学校	3 名
相談支援事業所	1 名

居住地	人数
横須賀市	1 名
横浜市	2 名
逗子市	1 名

（３） 訓練プログラム

① 訓練のスケジュール

1 日の訓練スケジュールは、就労移行支援事業と自立訓練事業（生活訓練）でそれぞれ異なる。

就労移行支援事業では、一般就労を目指す事を目的としており、原則、毎日 9 時から 15 時まで休まず訓練に参加できる方を対象としてスケジュールを設定している。

自立訓練事業（生活訓練）では、毎日の通所や体力をつける事を目的としており、無理なく訓練に参加できるようにスケジュールを設定している。

【就労移行】

9:00～10:20	朝礼・体操・訓練
10:20～10:30	休憩
10:30～12:00	訓練
12:00～12:45	昼休憩
12:45～15:00	訓練・終礼

【自立訓練】

9:00～9:55	朝礼・体操・訓練
9:55～10:05	休憩
10:05～11:00	訓練
11:00～11:10	休憩
11:10～12:00	訓練
12:00～12:45	昼休憩
12:45～13:45	訓練
13:45～13:55	休憩
13:55～15:00	訓練・終礼

② 訓練内容

➤ 作業訓練

就労移行支援事業、自立訓練事業（生活訓練）ともに、作業訓練や講習を中心としたプログラムになっている。作業訓練はワークサンプルが中心だが、就労移行支援事業では、ミラークよこすか内の清掃業務や 2 か月に 1 度程度外部作業を受注している。

【CD 作業】



【トレーディングカード作業】



【受注作業】



【環境整備】



- 外部実習（就労移行支援事業のみ）
近隣の 2 店舗で体験実習を行っている
 - I. 飲食店の食器洗浄、野菜切り
 - II. 飲食店の開店準備作業

➤ 講習

就労移行支援事業では、ビジネスマナーやコミュニケーション力の向上を目的としたスピーチ・ディスカッション等を週 2 回行った。また、就労意欲を高めるための外出プログラム「スーツデイ」を開催し、スーツ着用での企業見学やハローワーク訪問等の機会を提供した。

自立訓練事業では、自分の課題を整理し、生活面の課題を改善することを目的としたグループワーク（講座）を週 1 回行った。

【スーツデイ】

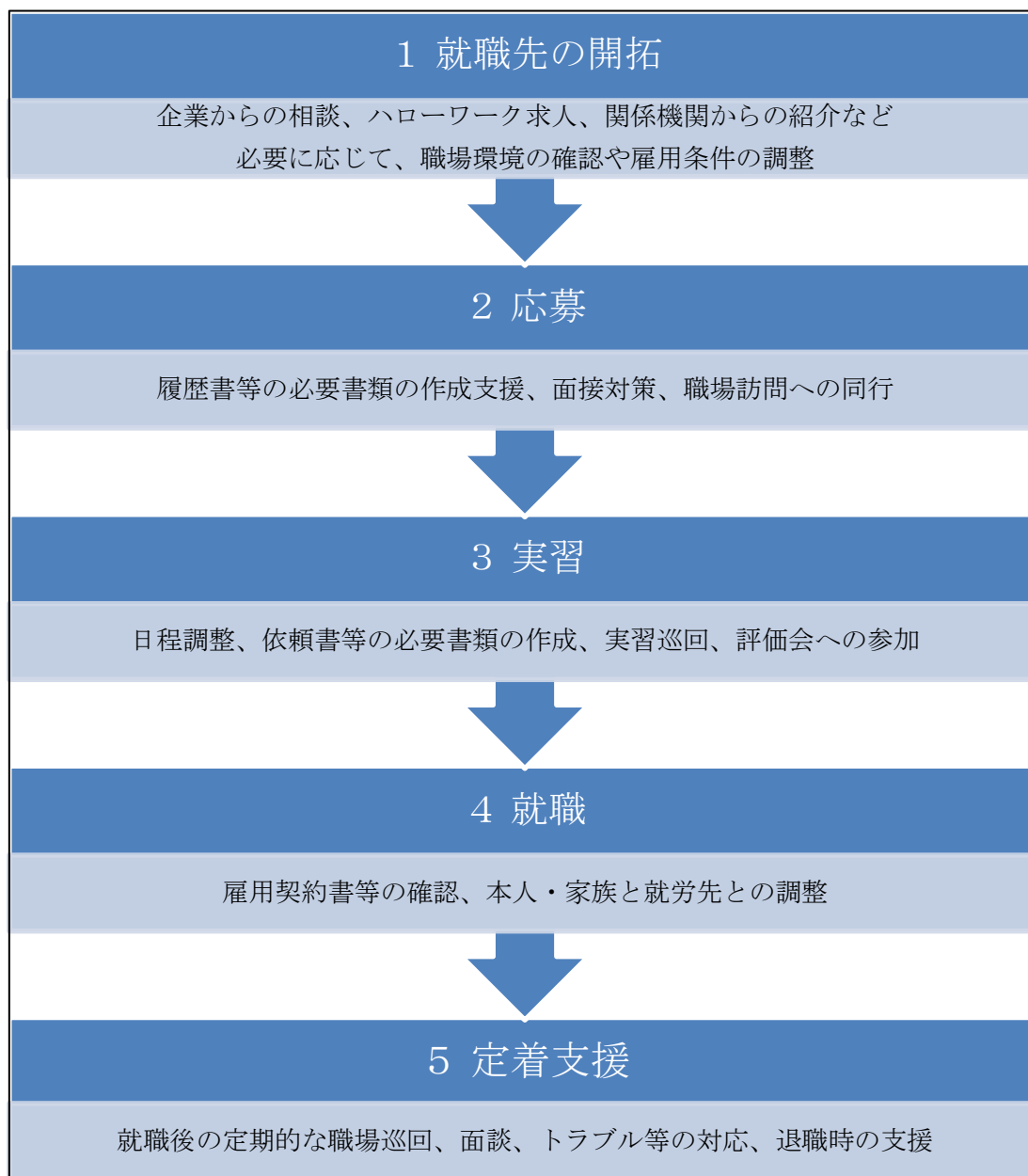


(4) 就労支援と定着支援

① ミラークよこすかの就労支援の流れ

ミラークよこすかの就労支援は、基本的に以下の流れで実施している。

一般就労を果たした方は、採用に伴いミラークよこすかを退所することになるが、就職後の支援もミラークよこすかが中心に行う。



② 2015 年度の就労実績

2015 年度は 4 名の利用者が一般就労を果たした。開所から間もない期間での就労者輩出となったことから、当年度の就労者は全員が利用開始から 1 年未満での就労となった。

4 名の就労者については、今後も引き続きミラークよこすかの職員が職場定着のための支援を継続的に実施する。

表 4.2015 年度の就労実績一覧

	就労先	仕事内容	ミラークよこすか在籍期間
1	三本コーヒー 株式会社	軽作業	6 か月
2	株式会社 CFS サンズ	バックヤード・接客補助	9 か月
3	株式会社 崎陽軒	調理補助・軽作業	9 か月
4	オーケー 株式会社	バックヤード	10 か月

3. 2016 年度に向けて

(1) 現状の振り返り

開所から 1 年が経過し、職員間でミラークよこすかの運営について分析を行った。

作業訓練、講習などのプログラム全般、利用者への指導方針、提供しているサービスの質等を中心に、現在の課題と今後のあり方について検討を重ね、実際にサービスを受けている利用者にアンケートを実施した。職員間の検討では、訓練内容の充実や利用者のニーズと訓練内容の不適合等の意見があがった。利用者アンケートでは、一定の満足度は得られたものの、「作業内容や講座内容が簡単である」という意見や、「コミュニケーションが取りやすい環境を作ってほしい」等の意見があがった。これらの調査を元に、訓練内容（作業・講座等）の充実と利用者ニーズへのさらなる対応をテーマに訓練プログラムの改定に取り組むことになった。

(2) プログラム改定

① プログラム改定のスケジュール

		12月	1月	2月	3月	4月
1	全体像の決定		完成			改定実行
2	支援方針決定		完成			
3	講座プログラム作成				完成	
4	作業プログラム作成					
5	レイアウト変更				完成	

② 支援の方針

ミラークよこすかを利用する方の特徴として以下の 3 点があげられる。

- ✓ 口頭でのコミュニケーションを概ね問題なくとることができる方が多い
- ✓ 自ら考えて行動することができる方が多い
- ✓ 過去の失敗等で自信がない方が多い

これまでは、職員が決めた手順やルールの順守を意識した訓練内容であったが、上記の特徴を考慮し、自主的に考えることや、他者とコミュニケーションを取りながら訓練を行えるプログラム構成にすることにした。

③ 講座プログラム作成

講座プログラムを見直すにあたり、「プログラム数をこれまでよりも充実させること」、「利用者の現状や課題にあった講座であること」、「異なる特徴を持った利用者に対応できるよう選択制を導入すること」等を視野に入れて検討した。

以下に変更のポイント列挙する。

変更前	変更後
● 就労移行支援事業、自立訓練事業、それぞれで開催 ● 就労移行支援事業（週 2 回～週 3 回） →既存のテキストをベースとしたビジネスマナー、スピーチ練習・ディスカッション、働く事例検討会など ● 自立訓練事業（生活訓練）（週 1） →生活関係の講座	● 12 種類の講座から必要なものを選択して実施 ● 大部分の講座が毎週開催 ● 講座の資料は事業所内で状況に合わせて作成

2016 年度の講座実施スケジュール

	月	火	水	木	金
9:15 ～ 10:30		コミュニケーション	スピーチ		ビジネスマナー スタートアップ
10:45 ～ 12:00	スピーチ①	ビジネスマナー スタートアップ	ビジネスマナー ステップアップ	楽しく元気に働くための 生活講座	コミュニケーション
13:55 ～ 14:55	色々な仕事を 知ろう	ディスカッション (隔週) 私の取扱説明書(隔週)	仕事の進め方	就活講座	働く事例検討 (隔週) 健康な体をつくろう(隔週)

④ 作業プログラム作成

ワークサンプルを基本とする方針は変えず、既存の 4 種類の作業内容の見直しを行うとともに新たに 4 種類の作業を導入することとした。

以下が変更及び新たに導入した作業である。

◆ CD 作業（内容変更）

発注書をもとに、指定された商品を作成。納品書の作成まで行う。



◆ ピッキング（新規）

発注書をもとに、指定された宛先ごとに商品を分け、納品書を作成する。



◆ メール仕分け（新規）

メールの数を数え、4 段 48 か所へメールを仕分けする。



◆ ビーズ（新規）

全 10 種類の商品の中から、発注書をもとに指定された分作成する。



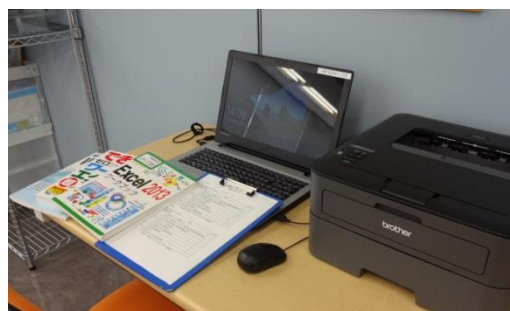
◆ 納品チェック（内容変更）

チェック表に記載された商品名、個数、バーコード、型番、会社名が正しいかを確認する。



◆ 事務・パソコン（新規）

訓練で使用する納品書や発注書などの管理、各作業の結果入力、PC スキル向上のための課題などを行う。



◆ カード（内容変更）

カード作業はグループ制を新たに導入し、グループ内でコミュニケーションを図り、互いに協力して作業を行うことにした。

◆ 環境整備（内容変更）

環境整備は、食器洗浄やトイレ清掃など、作業箇所の増加を図ることとした。

⑤ レイアウト変更

作業変更に伴い、訓練室のレイアウトを変更した。また、利用者がくつろげる空間作りとして、「ティーコーナー」を設置し、コーヒーや紅茶等を休憩時間に自由に飲めるようにした。

